

2008年5月19日

# 投資脳のつくり方

～食品・電機 収益環境が悪化～

経済アナリスト 木下晃伸（きのした・てるのぶ）

■当資料は、経済アナリストの木下晃伸が、投資環境についての情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。■当資料に基づいてとられた投資行動の結果については、株式会社きのしたてるのぶ事務所（以下当社）ならびに木下晃伸は一切責任を負いません。■当資料の内容は当資料作成時のものであり、将来予告なく変更される事があります。■当資料は、当社が信頼性の高いと判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料におけるデータ・分析等は過去の一定期間の実績に基づくものであり、将来の投資成果及び市場環境の変動等を保証もしくは予想するものではありません。

# 本日お話をさせていただくこと（目次）

## ● 「投資脳のつくり方」

- 食品・電機 収益環境が悪化
- 成田空港開港30周年、総合的な空港政策を
- 「陸の孤島」を生むIT

## ● 「個別銘柄情報はこちらから」

「なぜ、この会社の株を買いたいのか？」（プレミアムメールマガジン）ご紹介

●お申し込みはこちらから（1ヶ月間は無料視聴、いつでも停止できます）

（まぐまぐ） <http://premium.mag2.com/mmf/P0/00/50/P0005007.html>

（フィスコ） <http://fisco.jp/report/mail/terunobu-kinoshita.html>

# 食品・電機 収益環境が悪化

(出所) 2008年5月19日付日本経済新聞1面

- 原材料高に製品の価格追いつかず
- 「交易条件指数」が1990年度以降で最低に
- 「川上」の収益環境は良好

原材料や穀物の国際価格が高騰するなか、食料品など「川下」に当たる消費財関連の業種で製品への価格転嫁が遅れている。

製造業がどれだけ収益を上げやすい環境にあるかを示す日銀の「交易条件指数」(2000年=100)は07年度に86.6と前年度から2.4ポイント下がり、比較可能な1990年度以降で最低となった。

これまで森永乳業など、「川下」の企業を訪問取材させていただいているが、確かに業績を下方修正している企業が多い。

しかし、投資家の観点から見れば、好調の「川上」に投資するという選択肢もある。例えば、日本で言えば、商社などエネルギー関連の企業が当てはまる。さらに海外に目を転じれば、ブラジルなど大きな好機としてとらえられる。ブラジルはエタノールなどの原料を生産する資源国。日本から「EWZ」(ブラジルのETF)へ投資することも可能だ。

原材料高は、企業収益の悪化、給与所得の減少、消費の落ち込みなどマイナスのイメージで語られることが多いが、原材料高がプラスに転じているケースにどんどん目を向けていきたいと思う。

# 成田空港開港30周年、総合的な空港政策を望む

(出所) 2008年5月19日付日本経済新聞15面

- 成田空港、国際線旅客数ランキングで世界第6位
- 日本の航空会社の成長を妨げる貧弱なインフラ
- 道路行政主導の空港整備で、基幹空港の整備が立ち後れ

日本の国際的な表玄関として出発した成田国際空港が20日で開港30周年を迎える。

国際空港評議会(ACI)がまとめた2006年の国際空港の国際線旅客数ランキングで、成田は世界第6位。1位はロンドン(ヒースロー)で、アジアでは5位の香港が最高だ。成田は香港に大きく水をあけられ、近年はシンガポールやバンコクの国際空港と激しく競り合っている。

日本では、新幹線が通っていない場所に地方空港を建設するというように、道路行政の一環で空港建設が行われてきた経緯がある。結果的に基幹空港の整備が立ち後れてしまったといえる。

前回、タイのスワンナプーム空港に降り立ったときは、その大きさと先進的な設備に圧倒され、成田空港が「ローカル空港」のように思えたのをおぼえている。

日本にはANAを始め魅力的な航空会社が存在するが、成田空港の貧弱さがその成長を妨げているのが残念だ。ANAは、ハンディを抱えながらも戦略的なビジネスモデルを推進し、新たなフェイズを迎えようとしている。詳細については、プレミアムメールマガジン「なぜ、この会社の株を買いたいのか」で紹介した。興味ある方は、下記より【プレミアムメールマガジン問い合わせ20080519】と題してお送りいただきたい。

>> [toiawase@terunobu-kinoshita.com](mailto:toiawase@terunobu-kinoshita.com)

# 「陸の孤島」を生むIT

(出所) 2008年5月19日付日本経済新聞朝刊5面

- IT（情報技術）機器活用のあり方に危惧
- 一方通行になりがちなメールでの議論
- 『ウチの会社』という言葉に込められる連帯意識を大事に

作家の童門冬二さんがIT機器の活用のあり方について危惧を抱くという内容の記事があり、私自身も日々の生活にIT技術が浸透するなかで興味深く拝読した。

「**周囲の人や自動車への配慮がなく、電子機器に支配されていると言わざるを得ません。**職場では、隣の同僚を昼食に誘うのにわざわざメールを打つ社員がいると聞きます。」

「**まず人間が『主』であり、機械は『従』であるという関係を再認識する必要があるでしょう。**一方通行になりがちなメールで議論するのはやめるべきですね。意思疎通の方法としては向かい合って話をするのが一番です。」

「『ウチの会社』という言葉に込められている、**同じ船に乗った者同士の連帯意識が大切だ**と思います。」

私自身も毎日メールが100通以上届く。ただ私はメールのほとんどスケジュール調整など事務的な連絡で使っている。一方で、企業への訪問取材は、一見すると非効率のように思えるが、現場と接することから学ぶことが大きいのでできる限りおこなうようにしている。ITというデジタルが重要だからこそ、アナログを大切にしていきたい。

# 個別銘柄情報はこちらから

「なぜ、この会社の株を買いたいのか？」（プレミアムメールマガジン）

- ファンドマネジャー、アナリストの**実際の議論現場**を克明にお伝えします
- 1,000社以上の取材に裏打ちされた、**理論的な株式投資ノウハウ**を全開示
- **ネットセミナー**ならではの臨場感をお楽しみください

個別銘柄投資を通じ、**年率20%以上のリターンを確実に求めていく**ためには、理論に裏打ちされた**確かな投資ノウハウ**を知っておく必要があります。

実務経験があるからこそ気づいた投資ノウハウ、また、個別銘柄を徹底的に分析する際に、何を見て、何に気づけばいいのか、ネットセミナーを通じて克明にお伝えしていきます。

●お申し込みはこちらから（1ヶ月間は無料視聴、いつでも停止できます）

（まぐまぐ）<http://premium.mag2.com/mmf/P0/00/50/P0005007.html>

（フィスコ）<http://fisco.jp/report/mail/terunobu-kinoshita.html>

# 重要事項（ディスクレーム）

- 掲載される情報は株式会社きのしたてるのぶ事務所（以下当社）ならびに経済アナリスト木下晃伸が信頼できると判断した情報源をもとに作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、当社ならびに木下晃伸は保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。
- 本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。
- 本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権は当社ならびに木下晃伸に帰属し、事前に書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。
- 本資料により提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。
- 本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。
- 本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大することを保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社ならびに木下晃伸は、理由のいかんを問わず、責任を負いません。
- 当社とその取締役、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。
- 投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。